

令和２年度から発生した新型コロナウイルスが、５月より第五類へ引き下げとなった後も、天草圏域においては感染症の連鎖は途切れることなく、天特連の高齢者施設においても感染症によるクラスターの発生が多くみられる状況となっていました。こうした状況を鑑み、法人内における感染対策としては、従来通りの対応を継続することとし、その結果、幸いにも感染症等の被害もなく、対策としての効果は大きかったと考えています。

また、改めてですが、当法人の産業医である中山先生が、天草郡市医師会の感染症対策委員長でもあることから、遂次新たな情報提供をいただき、疑問に思うケースが発生した際には、指導や助言をいただきなど、ご利用者様、並びに職員への感染防止という観点からは大きな意義があったと感じています。また、熊本県より本年３月末まで、無償での抗原検査キットの提供があったことも、職員にとっては、精神的な安心感に繋がっていると感じています。また、本キットについては現在も在庫があることから、希望する職員等に対しては引き続き有効的な活用として提供していきたいと考えています。

令和６年３月３１日現在

職員数	５２人
男性	１７人
女性	３５人
平均年齢	５０歳
６５歳以上	１１人
平均勤続年数	１２年
勤続年数	
０～１０年未満	２２人
１０～２０年未満	１６人
２０年以上～	１４人
雇用形態	
正職	２７人
非常勤	１３人
パート	１２人
退職者数	
正職	６人
非常勤	１人
パート	１人
退職率	１５％
技能実習生数	１人
障がい者数	１人

年休所得状況

部署別	一人当たり取得数	取得率
事務・総務課	9.1	46%
介護計画課	12.5	63%
医務・看護課	7	69%
従来型介護支援課	11.2	64%
地域密着型介護支援課	9.1	53%
栄養管理課	9.5	53%
居宅支援	14.5	73%
グループホーム	14.3	87%
デイサービス	14.3	73%
平均	10.8	62%
年休発生日数		902.5日
取得日数		562.5日

月平均残業時間

部署別	時間	人数	一人当
事務・総務課	1	5	0.2
介護計画課	10	2	5.0
医務・看護課	141	5	28.2
従来型介護支援課	246	17	14.5
地域密着型介護支援課	119	10	11.9
栄養管理課	1	1	1.0
居宅支援	4	1	4.0
グループホーム	201	8	25.1
デイサービス	5	3	1.7
残業発生時間	728	52	14.0

子育て・介護の必要な家族がいる職員への支援等について

育児休業については昨年7月15日から8月31日まで対象者（男性職員1名）が発生しました。本制度については、これまでも幅広く周知を行ってきたところではありましたが、離職対策の一環として、今後も希望者が生じた場合は積極的な取得に向けて周知を行っていきたいと考えています。

離職率を下げるための柔軟な働き方

令和5年度における職員の退職者数については上記に示した通りとなっているが、正規職員の退職者数6名中、3名は家庭の都合によるもの。1名は新型コロナ感染に伴い、復職後の体調が改善できなかったことによるものとなっています。また本年も有給休暇の取得や、時間外労働の軽減等については、対策を講じてきたところでもあります。労働人口の減少や、働き手の確保については介護業界のみならず、すべての産業においても共通の課題であると認識しており、改めて離職防止の為に柔軟な取組に努めていきたいと考えています。

介護ロボットの導入について（エイジフレンドリー補助金）

介護現場において、介護ロボットの導入は、介護従事者の身体的負担軽減や介護業務の効率化を可能とするものであります。過去には「電動ベッド」、移乗サポートロボットである「Hu g T 1（T1-02）」の導入を行いました。令和5年度においてはエイジフレンドリー補助金を活用してきました。エイジフレンドリーとは、働く高齢者が増えており、高齢者の方々の労働災害を未然に防ぐための機器の購入等に対して補助金がつくものであります。本年はグループホームの入浴設備としてSOEL CX（ソエルシーエックス）を導入しました。本来であればグループホームとは認知症の方で比較的に介護度が低い方が入所の要件となっています。従って入浴設備も一般的な家庭用の入浴設備となっていました。近年は介護度も高くなり、入居者の状況によっては入浴時には介護職員が複数体制で行うケースも多くみられるため、腰痛予防のための機器の導入の申請を行い、今回初めて採択されることとなりました。導入後は職員の労働環境も整い、有効的な機器の導入であったと考えています。今後は他の部署等によっては、希望に応じた機種を選定等を調査し、検討していきたいと考えています。

写真は、グループホームしんわ、に設置した、SOEL CX（ソエルシーエックス）



災害等が発生した際の危機対策の対策として

全国各地で、自然災害が猛威を振るい、災害等が発生した際には更なる自己管理が求められます。業務継続化計画（BCP）が義務付けられ、危機管理に対する対策も臨機応変に対応する必要があります。そうしたことから、本年は停電となった際の対策として法人本部の機能を一部維持するために、法人が所有する電気軽自動車「サクラ」の電力を事務所にみに転電し、緊急時には対策本部として機能できるように工事を行いました。最長3日間の停電にも対応が可能となることから、災害等による電気が不通の場合にも、最低限の電力の使用が可能となることから効果が大いと考えています。

停電時の際に、サクラからの転電設備



各種事業の稼働率について

すべての事業所において前年対比として利用率の低下が見られました。特にデイサービスについてはホプ人所在地の半径 200m以内に、通所系サービスが 4 カ所存在し、且つ新和町の人口が著しく減少傾向をたどるなかで、今後は維持すべきサービスと、やむを得ず見直しを求めているかなければならない状況も考えられることから、本年 3 月末をもって「デイサービスセンターたんぽぽ」の休止とする判断に至りました。この傾向は天草のすべての地域において見られる状況であり、今後は医療機関等との情報交換を密に行いながら、ベッド稼働率の維持に努めていきたいと考えています。

従来型特養ベッド稼働率（令和元年度～）

令和元年度	96.9%
令和2年度	93.1%
令和3年度	95.96%
令和4年度	97.13%
令和5年度	95.80%

地域密着型特養ベッド稼働率（令和元年度～）

令和元年度	95.14%
令和2年度	96.58%
令和3年度	98.22%
令和4年度	97.49%
令和5年度	96.28%

ショートステイベッド稼働率（令和元年度～）

令和元年度	5.8名／日
令和2年度	5.2名／日
令和3年度	4.2名／日
令和4年度	4.8名／日
令和5年度	4.4名／日

※デイサービスセンターたんぽぽ（令和元年度～）

令和元年度	4.8名／日
令和2年度	6.3名／日
令和3年度	5.8名／日
令和4年度	4.5名／日
令和5年度	3名／日

グループホームベッド稼働率（令和元年度～）

令和元年度	94.6%
令和2年度	93.8%
令和3年度	97.3%
令和4年度	93.2%
令和5年度	91.5%